

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	当たり前の幸せと守る。	事務局	203
学校名	酒田市立第六中学校	氏名	佐藤 翔

「当たり前の幸せ」を私は、守る人がいるからこそいつも私達にいてくれる。この様に会付くことができた2日間でした。

私は元々母に連れて行った自衛隊のイベントによって、自衛隊といつ職が好きになりました。それによって体験先と自衛隊とまさに運びました。体験当日は、樂いな気持ちと不安な気持ちをいに入れとおなから、6人の友達と一緒に事務所の中に入っていました。初めに椅子に座ったその時心の中で、「2日間やつていいだろうか? 体力や筋力の少なさで足手まといにならぬいたろうか? など、大きな不安が心の中で大きく膨らんでいました。ですが初めて相手の方のあいさうで、ていねいで優しい対応をしてくださり、緊張や不安が減って何んばる! とい構えができました。その後に、自衛隊の仕事内容と聞きました。その時、私たちは担当の紫田さんが自衛隊のイメージと仕事内容を尋ねられました。私といくま7人は「こわい」や「災害派遣」と2つ、3つでみんな答えがつきてしまい分からなくなったり時に紫田さんが改めて自衛隊について語りました。「自衛隊は365日24時日本を守っている人たま」と、他にも初めて知る事、聞いたことが全くない事を教えてくださいました。その後は基礎防護訓練といふ敬礼や氣をつけ、休めなどのが初歩的な訓練を一から教えてくださいり、少し疲れても体で体力検定を行なう体がボロボロになりました。自衛隊の人々は、日々の訓練を積み重ねてから体力がついて、いかに強くなるのだと思いました。朝からずっと訓練をしていたので母が作ってくれた卵焼きがいつも以上においしく感じました。そうしたら、「お疲れ」と声をかけてくださいり私達にアイスを渡してくださいました。とても爽やかな気持ちになって午後も何んばる!と思えました。午後にはロープワークを体験して協力や紫田さん達とのコミュニケーションを多くとることができました。疲れはアテフラフラした足取りで短い帰路ととなり1日を振り返り明日も何んばる!と思いました。

2日目は、朝早くからみんなで車に乗って東京の神奈川駐屯地に訪れました。2時間の移動で少し固くなったり体を伸ばしたりみんなの場所へ向かいました。その日は、戦車やヘリコプター等の試乗、見学や顔にドーランと塗って偽装体験を行な、あといつも間にお風の時間になり、その日は基地の食堂で基地の給食を食べさせてもらいました。基地内で働いている自衛官の方々がたくさんいて緊張しましたが一生に一度の経験なので昨日と同じくらいとてもおいしく感じました。午後からは、護身術や格闘技と

習いました。2人1組で練習して天下で汗だくになって互いと寝め合ひ、高め合いました。そんな余韻に浸っていると移動するよと声が聞こえ7人で向かいました。すると、防衛館という駐屯地などの歴史が知られる場所に差しました。その時、私は候補生だと思われる色々な教官の方々が見えて、その真剣な表情が見えた瞬間私は「かっこいい」と口に出してしまいました。馬鹿げ足で行ったためその人達の事はわからぬが、かっこ良くて尊敬するべき人だという事は確かに分かりました。その後すぐに担当してくれた方の話を聞きました。お話を戦前、戦時中、戦後、現代という流れで教えてくださいました。歴史の物は生で見たことはなかったけれど、その中で教科書で見るような遺書、手紙を見て本当に辛くなりましたが、担当の方が「もうこんな事が当たり前にならない様に自衛隊は日本を守ってるんだよ。」と仰いました。私はその時、ふと1日目の「自衛隊は365日24時間日本を守っているんだよ。」という言葉を思い出しつつと氣付くことがありました。それは、あたり前にある幸せは守る人がいるからこそ絶えず側にいてくれることですが、私はそのあたり前にある幸せに気付くこと、そして幸せを守る人達に気付くことができなかっただと認識させられました。自衛隊の方々は、目に見える場所でも、私達が見ない、見えない所でも自身の使命・責任を全うしていることが分かり、私はやはり自衛隊が好きだと改めて感じました。

私は、この2日目の職場体験を行ってきて、常に国を守るという義務と背負い、有事に備え兼ね備える自衛隊の大変な所、人・國のために役に立ちありがとうごと感謝されるやりがいがある自衛隊の魅力を再度感じ、学ぶことができました。私はまた「これから」「こんな職業がいいがあ」という様なものはまだ持ていません。ですが、私があたり前にある幸せを守りそして感謝される職業についてみたりなと思いました。それは、自衛隊だけでなく医療従事者、介護士、保育士などまた多くの選択肢があることに気付き、身近にある職業やボランティア活動に興味を示していきたいと思いまして。そして、大人になるまで自分としっかり向き合ひ、いつも働く時は、その仕事を誇りを持って傳ねきたいくてす。